



人を育て 地域を創る

文責：玉名市教育委員会

玉名市地域学校協働本部
事業だより第114号
令和8年7月8日

◇第1回「地域と学校の連携・協働」推進会議

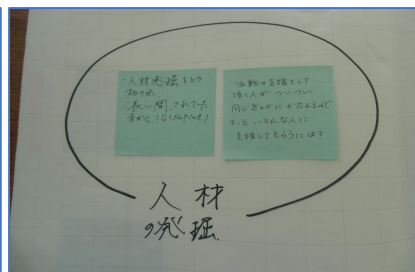
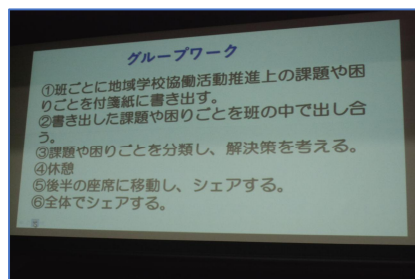
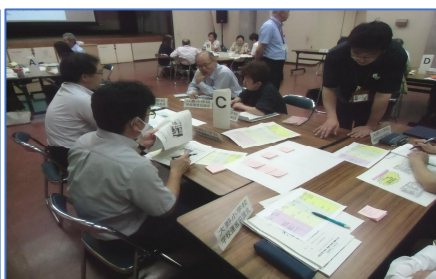
6月30日（火）本年度第1回「地域と学校の連携・協働」推進会議を開催しました。本推進会議では、① 地域学校協働活動の概要説明 ② 昨年度の活動を3部門の年間計画で確認する。③ 地域学校協働活動推進上の課題や困りごとを出し合い解決策を考える。の3つの内容について協議を行いました。話し合いで得たことや他校の実践から得たヒントを各学校の活動に生かしていただければありがたいです。



※24日（水）の推進会議は文化センター避難所開設のため中止とさせていただきました。夏季休業期間中の学校訪問にて上記①②③について情報交換させていただく予定です。

◇活動の様子！

グループワークの情報交換では、熱心に協議が行われました。



◇まずは、チェックを！

「学校と地域との連携・協働状況の確認」の表です。まずは状況を把握し、実態に合わせて無理をせずに少しずつ次の取組につなげて行きましょう。

	チェック項目	×△○○◎
1	地域と学校がともにビジョンやめざす子供像を共有する熟議等を行っている。	
2	地域連携・協働活動に関する年間計画が作成されている。	
3	教職員が地域連携や協働活動の意義を共有する場がある。（研修や職員会議等）	
4	地域学校協働活動推進員との話し合いや情報共有がなされている。	
5	ボランティアルームの設置や教職員への周知など、ボランティアの活動環境が整っている。	
6	活動が子供たちにとって、体験にとどまらず、ねらいに沿った教育活動になっている。	
7	ボランティア募集や学校の教育活動、ボランティア活動の様子を情報発信している。	
8	活動継続のために、振り返りや情報の蓄積を行うなどチーム体制づくりが行われている。	
9	活動や記録を取りまとめ、次年度の年間計画の見直しに生かしている。	

裏面あり

「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の実現に向けて
なぜ今、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動が必要なのか

背景：時代の変化に伴い学校と地域の在り方が変化

◆教育環境を取り巻く状況

- 児童生徒の減少
- 子供の規範意識等への課題
- 学校が抱える課題の複雑化・困難化

◆社会の動向

- 少子高齢化の進行
- グローバル化や情報化の進展
- 地域社会のつながりや支え合いの希薄化による教育力の低下

◆教育改革の動き

- 「社会に開かれた教育課程」の実現など

◆地方創生の動き

- 学校を核とした地域の活性化

これからの時代を生き抜く力の育成（学校だけでは得られない知識・経験・能力）及び地域住民が自ら地域を創っていくという「主体的な意識」への転換が求められています。

そのためには、学校と地域の連携・協働が必要です。

具体的な取り組みとして・・・

コミュニティ・スクール



地域学校協働活動

「目標」や「ビジョン」を共有することにより、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を併せて実現することが可能になります。

学校と地域、双方から見た PDCA（計画→実行→評価→改善）

効果的かつ持続的な学校運営と地域学校協働活動の仕組みを構築するためには、CS における学校運営協議会と地域学校協働活動のそれぞれの PDCA を回しつつ、お互いが連携・協働することが重要です。

P：学校運営協議会や地域学校協働活動に関する計画（熟議）

D：共有された目的・目標に向けた取組

C：学校運営や地域学校協働活動に対する評価

A：取組の改善、次年度計画に反映



◇自校の課題解決につなげてください。

※上記のことを参考にしていただきながら、地域の実情と学校の実態に応じた、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を図っていただければと思います。持続的、継続的に取り組んでいただくことが重要です。無理せず、できることをできる範囲で取り組んでいきましょう。